

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数		子実重 (kg)	同左比 (%)			
中央農試	ユキシズカ	7.17	9.21	48	8.2	132	微	311	92	12.5	3中	1999～ 2001
	スズマル	7.21	9.30	61	9.6	124	少	338	100	15.0	3上	
	スズヒメ	7.19	9.21	54	7.0	113	少	280	83	13.4	3下	

参照 1) 北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-3 (2002).  
2) 山崎敬之 等, 北海道立農試集報. 87,21-32 (2004).

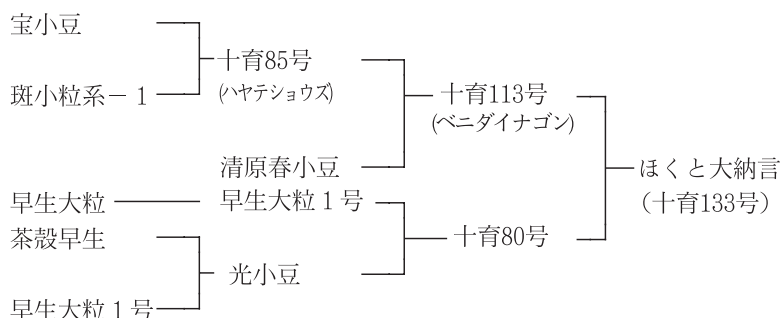
## 5. 小豆

- (1) ほくと大納言 (系統名 十育133号) 1996年  
登録番号: (北海道) 小豆北海道第19号  
(農水省) あずき農林第11号  
(種苗法) 第7694号

### セールスポイント

大納言規格内収量が「アカネダイナゴン」より優り、  
外観品質、加工適性に優れる大納言品種である。

来歴 本品種は、良質、大粒、多収品種の育成を目標  
とし、1983年に北海道立十勝農業試験場において「十育  
113号」を母、「十育80号」を父として人工交配を行い、  
以後選抜と固定を図り育成した。1989年より「十系495  
号」、1992年からは「十育133号」の系統名で各種試験を  
行い、1996年優良品種となった。なお、本品種の系譜は  
次のとおりである。



### 特性概要

- 主茎長は中の短で「アカネダイナゴン」より長く、  
主茎節数はやや少で少ない。分枝数は同じ多である。
- 小葉の形は円葉である。毛茸の多少と形は少と鈍、  
花色は黄である。
- 子実の形は円筒、大きさは極大に属し、百粒重は  
「カムイダイナゴン」より軽い、「アカネダイナゴン」  
より25%程度重い。種皮色は淡赤で、「アカネダイナ  
ゴン」、「カムイダイナゴン」より明るい。
- 開花期は中、成熟期は中の晩で「アカネダイナゴン」  
と同じである。
- 耐倒伏性は中、低温抵抗性はやや弱、落葉病、茎疫

病、ウイルス病抵抗性はいずれも弱である。

- 子実収量は「アカネダイナゴン」とほぼ同じである  
が、大納言規格内収量は優れる。
- 加工製品の色は「アカネダイナゴン」より淡く、加  
工適性が優れる。

### 栽培適地と奨励態度

北海道の道央、道南の大納言品種栽培地帯に適する。  
栽培上の注意は、①落葉病、茎疫病、萎凋病に抵抗性を  
持たないので、適正な輪作を行うとともに、適正な防除  
に努める。②雨害等で品質を落とさないため、刈り遅れ  
を避け適期収穫に努める。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ほくと大納言	7.29	9.26	1.4	61	37	290	96	23.4	3下	1992,1994,1995
	アカネダイナゴン	7.29	9.28	1.0	51	56	301	100	18.3	4上	
	カムイダイナゴン	7.29	9.26	3.2	66	39	300	100	25.3	4上	
中央農試	ほくと大納言	7.27	9.17	0.4	39	31	237	102	21.4	3上	1992~1995
	アカネダイナゴン	7.27	9.22	0.3	33	44	233	100	16.8	4中	
遺伝資源 センター	ほくと大納言	7.24	9.12	0.7	40	32	261	99	21.2	2下	1992~1995
	アカネダイナゴン	7.24	9.15	0.8	39	46	263	100	17.2	3下	

注 1) 倒伏程度は無：0，微：0.5，少：1，中：2，多：3，甚：4で示し，以下同じ。

2) 成熟期の莢数は株当りの莢数であり，以下同様である。

参照 1) 北海道農政部編，平成8年普及奨励ならびに指導参考事項，13-16(1996)。

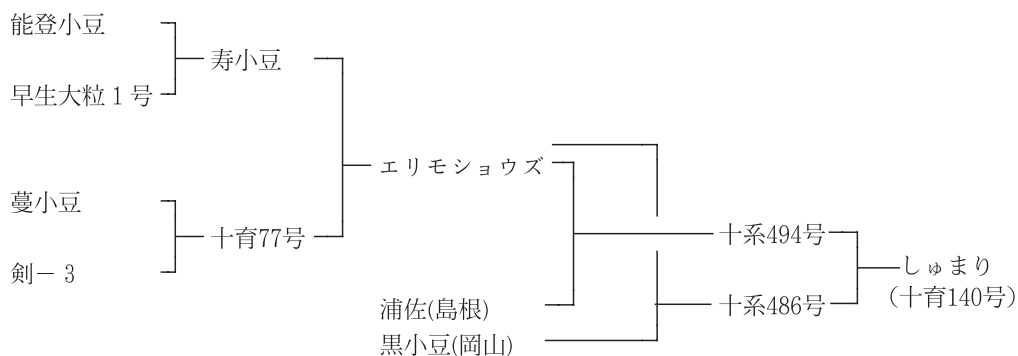
2) 島田尚典 等，北海道立農試集報，72,85-95 (1997)。

(2) しゅまり (系統名 十育140号) 2000年  
登録番号：(北海道) 小豆北海道第20号  
(農水省) あずき農林第12号  
(種苗法) 第11098号

#### セールスポイント

落葉病，茎疫病，萎凋病に対する複合抵抗性を有し，  
あん色が良好で風味が強く加工適性に優れる普通小豆品  
種である。

**来歴** 本品種は，中生，良質，落葉病・茎疫病・萎凋  
病抵抗性品種の育成を目標とし，1989年に北海道立十勝  
農業試験場において「十系494号」を母，「十系486号」  
を父として人工交配を行い，初期世代で落葉病及び茎疫  
病の抵抗性選抜を行った。以後選抜と固定を図り育成し  
た。1995年より「十系641号」，1996年からは「十育140  
号」の系統名で各種試験を行い，2000年優良品種となっ  
た。なお，本品種の系譜は次のとおりである。



#### 特性概要

1. 上胚軸は「エリモショウズ」より長く，主茎長も同  
品種より長い。主茎節数，分枝数はほぼ同じである。
2. 小葉の形は下位葉が「エリモショウズ」と同じ円葉  
であるが，上位葉はやや円葉剣先である。毛茸の多少  
と形は少と鈍，花色は黄である。
3. 子実の形は円筒，大きさは中に属し，種皮色は淡赤  
である。
4. 開花期は中，成熟期は中の早で「エリモショウズ」  
と同じである。

5. 耐倒伏性はやや強，低温抵抗性は弱，落葉病抵抗性  
は強，茎疫病抵抗性はかなり強，ウイルス病抵抗性は  
弱である。
6. 子実収量は「エリモショウズ」の中の多に対し中  
である。
7. 加工製品は「エリモショウズ」よりあん色が良好  
(赤紫系)で風味が良い。

#### 栽培適地と奨励態度

北海道の道央，道北，道南の中生種栽培地帯で落葉病，

茎疫病または萎凋病の発生地帯及びこれに準ずる地帯に適する。栽培上の注意は、①落葉病，茎疫病，萎凋病に抵抗性を持つが，本品種を侵す菌系が確認されているの

で，適正な輪作を行う。②耐冷性が弱いので，安定生産のため栽培適地を遵守する。③排水不良圃場では，茎疫病の発生を防ぐため排水対策に努める。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	しゅまり	7.30	9.21	1.0	63	41	302	92	15.0	2下	1996～1999
	エリモショウズ	7.29	9.21	1.3	57	46	330	100	14.8	2下	
	きたのおとめ	7.29	9.21	1.5	55	46	328	99	14.2	2中	
上川農試	しゅまり	7.25	9.5	1.0	55	57	321	98	11.4	2中	1996～1999
	エリモショウズ	7.24	9.5	1.4	54	60	328	100	11.6	2中	
	きたのおとめ	7.25	9.5	1.6	52	64	341	104	11.0	2上	
中央農試	しゅまり	7.25	9.3	1.1	52	38	244	118	11.7	2中	1997～1999
	エリモショウズ	7.24	9.2	0.7	46	40	206	100	11.4	2下	
	きたのおとめ	7.24	9.1	0.8	46	39	206	100	10.6	2中	
遺伝資源 センター	しゅまり	7.23	9.6	0.8	55	47	235	100	10.6	3中	1996～1999
	エリモショウズ	7.24	9.5	0.9	52	48	236	100	10.8	3中	
	きたのおとめ	7.23	9.5	1.0	53	51	232	98	10.2	3中	

- 参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，34-36(2000).  
2) 藤田正平等，北海道立農試集報. 82, 31-40 (2002).

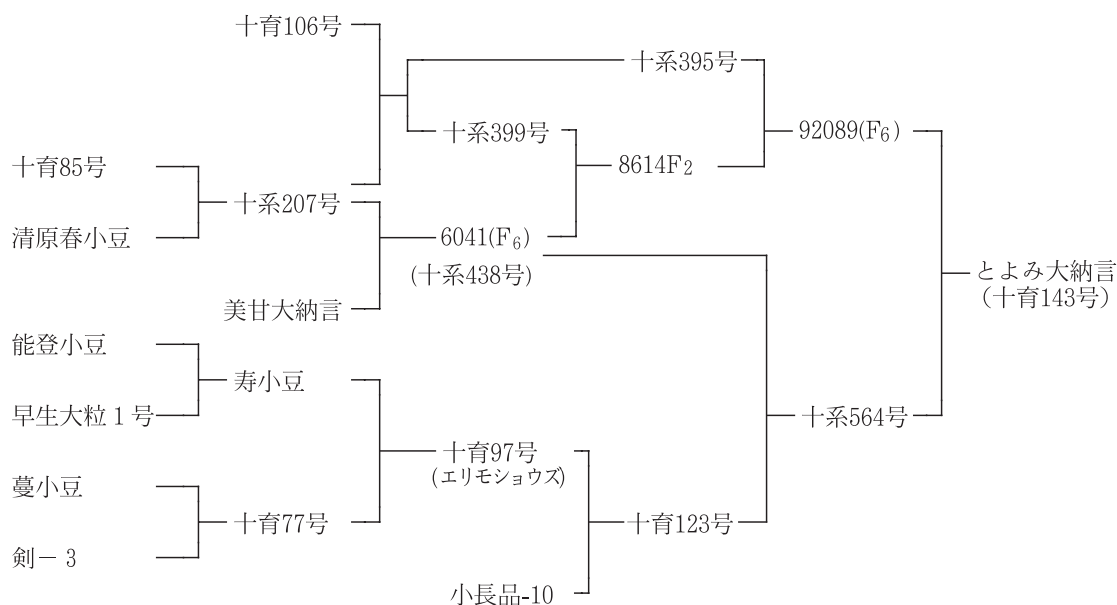
(3) とよみ大納言(系統名 十育143号) 2001年

登録番号：(北海道)小豆北海道第21号  
(農水省)あずき農林第13号  
(種苗法)第12192号

来歴 本品種は，極大粒，落葉病・萎凋病抵抗性品種の育成を目標とし，1992年に北海道立十勝農業試験場において「92089 (F<sub>6</sub>)」を母，「十系564号」を父として人工交配を行い，以後選抜と固定を図り育成した。1997年より「十系699号」，1998年からは「十育143号」の系統名で各種試験を行い，2001年優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。

セールスポイント

極大粒で，種皮色が明るく，落葉病，萎凋病抵抗性を有する大納言品種である。



### 特性概要

1. 主茎長は「アカネダイナゴン」と同じ中の短であるがやや短く、主茎節数は同品種より少ない。分枝数は同じ多である。
2. 小葉の形は円葉である。毛茸の多少と形は少と鈍、花色は黄である。
3. 子実の形は短円筒、大きさは極大に属し、百粒重は「ほくと大納言」よりやや重く、種皮色は「アカネダイナゴン」の濃赤に対し、「ほくと大納言」と同じ淡赤である。
4. 開花期は中、成熟期は中の晩とともに「アカネダイナゴン」と同じである。
5. 耐倒伏性は中、低温抵抗性はやや弱、落葉病抵抗性は強、茎疫病及びウイルス病抵抗性は弱である。

6. 子実収量は「アカネダイナゴン」とほぼ同じであるが、大納言規格内収量は「アカネダイナゴン」, 「ほくと大納言」より多い。
7. 外観品質に優れ、雨害による濃赤粒の発生が「ほくと大納言」より少ない。

### 栽培適地と奨励態度

北海道の道北、道央、道南及び十勝の大納言品種栽培地帯に適する。栽培上の注意は、①茎疫病に抵抗性を持たないので茎疫病発生ほ場での栽培は避ける。②雨害による濃赤粒発生が「ほくと大納言」より少ないが、良質安定生産のため刈り遅れを避け、適期収穫に努める。③落葉病に抵抗性を持つが、栽培に当たっては適正な輪作を行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	とよみ大納言	7.30	9.22	3.5	84	41	368	101	25.9	3下	1998~2000
	アカネダイナゴン	7.28	9.21	3.2	93	60	363	100	18.2	3下	
	ほくと大納言	7.30	9.21	3.6	103	40	329	91	23.5	3下	
中央農試	とよみ大納言	7.22	9.2	1.0	44	35	254	102	19.4	3中	1998~2000
	アカネダイナゴン	7.22	9.2	1.3	46	48	249	100	14.0	4下	
	ほくと大納言	7.22	9.4	1.3	54	34	225	90	18.3	4中	
上川農試	とよみ大納言	7.26	9.7	3.2	64	50	357	99	21.4	3上	1998,1999
	アカネダイナゴン	7.27	9.10	3.2	80	75	359	100	14.0	3下	
	ほくと大納言	7.25	9.8	3.5	72	55	344	96	19.7	2下	
遺伝資源 センター	とよみ大納言	7.25	9.4	1.5	55	36	233	106	19.7	3中	1998,1999
	アカネダイナゴン	7.25	9.5	1.8	64	51	220	100	15.5	4中	
	ほくと大納言	7.24	9.5	1.7	68	34	197	90	19.2	4上	

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 10-12(2001).  
2) 藤田正平等, 北海道立農試集報. 84,25-36 (2003).

(4) **きたほたる** (系統名 十育146号) 2004年  
登録番号: (北海道) 小豆北海道第22号  
(農水省) あずき農林第15号  
(種苗法) 第 号

は「十育146号」の系統名で各種試験を行い、2004年優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

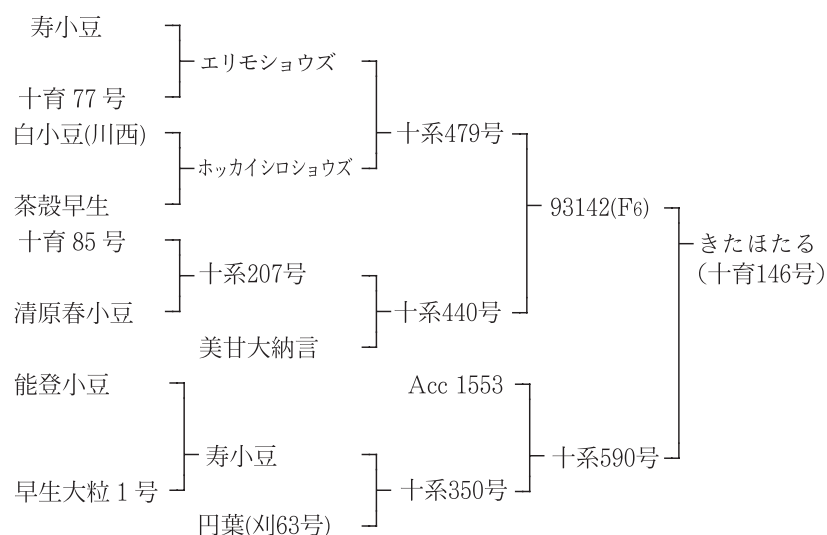
### セールスポイント

あん色が白く明るい色調で、加工適性が優り、落葉病、茎疫病、萎凋病に抵抗性を有する白小豆品種である。

**来歴** 本品種は、良質、耐冷、落葉病・茎疫病・萎凋病抵抗性の白小豆品種の育成を目標とし、1993年に北海道立十勝農業試験場において「93142 (F<sub>6</sub>)」を母、「十系590号」を父として人工交配を行い、以後選抜と固定を図り育成した。1999年より「十系774号」、2000年から

### 特性概要

1. 主茎長は「エリモショウズ」よりやや短く短の長である。主茎節数は同品種と同じやや少で、分枝数は同じ中である。
2. 小葉の形は円葉である。毛茸の多少と形は少と鈍、花色は黄である。
3. 子実の形は短円筒、大きさは中の小に属し、種皮色は黄白である。
4. 開花期は「エリモショウズ」と同じ中で、成熟期は



「ホッカイシロシヨウズ」と同じ中の晩であるが、同品種よりやや早い。

5. 耐倒伏性はやや強、低温抵抗性は弱、落葉病及び茎疫病抵抗性は強、ウイルス病抵抗性は弱である。
6. 子実収量は「エリモシヨウズ」より低収であるが、「ホッカイシロシヨウズ」並である。
7. 粒揃いがやや劣るが、「ホッカイシロシヨウズ」より種皮色及びあん色が白く明るい色調で、加工適性が優れる。

#### 栽培適地と奨励態度

北海道の道東の早生種栽培地帯を除く小豆栽培地帯に適する。栽培上の注意は、①ピシウム苗立枯病に対して赤色の品種より弱いので、種子消毒を必ず行い、播種量を多めとする。②成熟期前後の降雨で腐敗粒が多発する場合がありますので、刈り遅れを避け適期収穫に努める。③落葉病、茎疫病、萎凋病に抵抗性を有するが栽培に当たっては適正な輪作体系を守る。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	きたほたる	7.27	9.29	1.6	64	56	338	99	13.9	4中	2000~2003
	ホッカイシロシヨウズ	7.26	10.1	2.5	79	65	340	100	15.6	4中	
	エリモシヨウズ	7.27	9.25	3.4	72	54	385	113	15.4	4上	
上川農試	きたほたる	7.23	9.18	3.2	74	67	435	107	14.1	4中	2001~2003
	ホッカイシロシヨウズ	7.23	9.24	3.9	84	77	406	100	15.9	4上	
中央農試	きたほたる	7.30	9.24	2.0	59	52	341	97	12.5	規格外	2001,2003
	ホッカイシロシヨウズ	7.30	9.26	2.5	57	55	350	100	14.8	規格外	
道南農試	きたほたる	7.30	9.21	1.2	39	41	241	97	13.3	4上	2001~2003
	ホッカイシロシヨウズ	7.30	9.28	2.4	52	51	248	100	15.4	4上	

注) 十勝農試の成熟期は未成熟で収穫した1試験を除く。

参照 1) 北海道農政部編, 平成16年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-42(2004).

## 6. 菜豆

- (1) 福うずら (系統名 十育D10号) 1999年  
登録番号: (北海道) 菜豆北海道27号  
(種苗法) 第10367号

#### セールスポイント

早熟, 多収で, 耐倒伏性に優れ, やや大粒で食味が良

い, わい性の中長鶏類品種である。

**来歴** 本品種は, 矮性で多収, 大粒良質の中長鶏類品種の育成を目標とし, 1990年に北海道立十勝農業試験場において, 「十系D5号」を母, 「十系B158号」を父として人工交配を行い, 以後選抜と固定を図り育成した。1995